

令和4年度 第2回環境計画推進パートナーシップ会議 議事録（発言要旨）

■開催日時：令和4年度11月10日（木）10：00～12：00

■開催場所：西宮市役所 第2庁舎 6階 601会議室

■出席委員：服部会長、清水副会長、樋口委員、西明委員、山崎委員、津高委員、
平野委員、狭間委員、張野委員、曾我委員、藤井委員、鈴木委員

■欠席委員：花田委員、西井委員、石川委員、足立委員、北詰委員、野島委員
佐山委員

■事務局：（環境局）岩崎局長

（環境総括室）岩田室長

（環境事業部）森川部長

（環境施設部）鳥羽部長

（環境学習都市推進課）小田課長、平井係長、八木係長、田中係長、森園副主査、藤原副主査

（美化企画課）藪内課長、井上係長

（事業系廃棄物対策課）畑課長

（施設管理課）大田課長

（施設整備課）高橋課長、太田担当課長

（土木局）尼子局長（欠席）

（公園緑化部）藤原部長

（花と緑の課）船越課長、山本係長

（教育委員会）漁次長（欠席）

開会の挨拶

1. 環境まちづくりフォーラムについて（協議）

資料1「令和4年度環境まちづくりフォーラムについて（案）」について説明。（事務局）

●案1について、最近のフォーラム等は、会場への来場とオンラインを組み合わせたハイブリッド形式での開催が主流であるが、会場限定にしている理由は。（委員）

→オンラインでの開催は、Wi-Fi等通信環境の問題があり難しい。また、ハイブリッド形式案も、実施可能か不透明な部分があり今回の会議では見送りにした。（事務局）

●Wi-Fi環境等といった簡単な機材の問題であれば、ハイブリッド形式の開催を提案する。（委員）

→検討する。（事務局）

●広報は、市のホームページだけでなく、市政ニュースでも呼びかけてはどうか。また、今までフォーラムに参加していたエココミュニティ会議や環境衛生協議会のメンバーの方には、パソコンに不慣れな方もいるので、対面式も良いと思う。ただ、人数も50名で数に限りがあるので、Wi-Fi環境を見直して、オンラインと並行して考えてほしい。（委員）

●開催が平日なのはどうか。参加できない方には、後日、YouTubeで視聴していただくのはどうか。広報に関しては、広報誌や地域での視聴などの協力も可能。（委員）

●子どもの参加も想定されているが、平日なら難しい。事前にテーマに沿った質問を受け付けてい

るが、回答を見ることができないのは、残念なことだと思うので、録画で残してはどうか。土日開催は、難しいのか。(委員)

→案1であれば、環境パネル展の開催期間中の休日となると、既に、エココミュニティ会議の交流会や、表彰式の予定があり、同日にフォーラムを開催できる日がない。案2であれば、例年、会場となっていた市役所東館大ホールがコロナ関連業務のため、使用できないことと、市内で東館大ホールと同規模の会場がないため、平日の案となったものである。(事務局)

●平日開催も理解できるが、後日録画での視聴も検討してほしい。また、案2の環境パネル展開催期間以外の平日とあるが、環境パネル展とコラボということであれば、環境パネル展期間中の平日開催はどうか。市役所と中継し、環境パネル展の様子を上映してみてもどうか。(委員)

→案2の環境パネル展期間中の同じタイミングで実施しないのは、人員配置の問題や、当課のイベントが集中していることが大きい。案2を採用した場合、サテライト放送したものを、環境パネル展で放送を検討する。(事務局)

●環境パネル展開催中に、ハイブリッド形式で実施するのが良いのではないかと。(委員)

→環境パネル展期間中の開催も可能であるが、案2であれば、会場が別になり、パネル展とのコラボの意味が薄れるためパネル展開催期間以外としている。(事務局)

●2月に開催されるのは、コロナが心配だが、人数、会場は問題ないと思う。録画すれば小中学校の教室のテレビで視聴でき、高齢者の方々は、公民館等で視聴できる。録画をすることによって、啓発にもつながる。(委員)

→録画し、後日、市のYouTubeサイトに掲載するか検討する。(事務局)

●WEBやYouTubeなら、子どもたちも視聴できる。環境パネル展も見たい。(委員)

●ハイブリッド形式でYouTube録画をし、サテライト視聴で併用可能ではないか。また、フォーラムの広報については、ホームページに掲載するだけでなく、「プラスチック・スマート・アクションにのみや」のキックオフフォーラムにもあたるので、チラシの中に、申込書や質問項目、YouTube配信等の内容も盛り込んで作成・配布すれば、海洋プラスチック問題の意識を高揚させ、フォーラム実施の意味も出てくるのではないかと。(委員)

●ハイブリッド形式の意見が多いので、技術的にできるかの問題もあるが再検討してほしい。(委員)

2. 第3次西宮市環境基本計画の令和3年度実績評価に対する審議会意見について(報告)

「資料2-1 第3次西宮市環境基本計画の概要及び令和3年度実績の評価結果について」および「資料2-2 令和4年度(2022年度)版環境報告書に対する意見及び回答」をもとに事務局より説明。

●資料2-1 低炭素の廃棄物部門でプラスチックの含有量2.1%増えているが、その理由は。(委員)

→季節変動によるぶれが出ている。今年度から指定ごみ袋制度の導入を実施したが、令和8年度の新破碎選別施設の稼働開始に合わせて分別区分の見直しを行う予定である。それにより分別が促進され、プラスチックごみがリサイクルになることで、可燃ごみに含まれるプラスチックの量も削減され、廃棄物からのCO₂の排出量が減る見込みである。(事務局)

●ばらつきがあるということで理解した。これからいろんな施策をして、効果が見えてくればよい

と思う。(委員)

- 資料 2-1 資源循環の令和 5 年の中間目標に対して、令和 3 年のリサイクル率との乖離が大きい。分別を進めてはいるが、どのような取り組みをして、目標を達成しようと考えているのか。(委員)
→令和 5 年度の中間目標値は、「西宮市一般廃棄物処理基本計画」の計画期間 10 か年の中で、単純に 10 年間の中間値として目標を設定している。今年度から指定袋制度を導入したが、令和 8 年度には分別区分の見直しを予定している。今まで可燃ごみで出されていたものが、その他プラや古紙等に分別され、リサイクルが進んでいる状態になってきている。今後、いろいろな施策を講じて、目標達成に努めていきたい。(事務局)
- 資料 2-1 参画・協働のエココミュニティ活動内容の評価は、難しいと思うが、エココミュニティ会議設置数より、活動内容がどのように地域に繋がっていったのか、目標に見合った評価を検討してはどうか。(委員)
→活動頻度も地域ごとに異なる中で、どのように評価していくのか苦慮している。現行の第 3 次環境基本計画の中では、様々な地域のあり方があるということを含めて評価をしていく必要がある。今後、どのように評価していくかは検討していきたい。また、資料 2-3 環境報告書 47 ページに、エコカード・エコスタンプシステム、パートナーシッププログラムで事業者や市民団体に参画を促すと記載しているため、エココミュニティだけでなく、他の活動も含めて評価検討を検討していきたい。(事務局)
- 資料 2-1 低炭素の電力の使用のところで、排出係数は自分たちがコントロールできる数値ではなく、今後、多くの石炭火力発電所が稼働すると、省エネを進めても、排出量が減らないと思われる。再エネの会社を誘致する等、排出係数をなるべく西宮市の中で、コントロールする必要があるのではないか。そういった議論や計画があるなら、教えてほしい。(委員)
→先年、地球温暖化対策推進法が改正され、地方公共団体が区域施策編において再生可能エネルギーの導入目標を設定するということが義務付けられた。今年度、再生可能エネルギーのポテンシャルが、西宮市にどの位あるのかという調査に着手している。西宮市のような都市部では、再エネの適地がなかなか見当たらないが、公共施設の屋根を活用するなど、再生可能エネルギーの創出の可能性を今後検討していく。(事務局)

3. その他報告事項

資料 3-1 指定袋制度の導入効果について (9 月末実績) 説明

資料 3-2 リユースの促進に向けた民間企業との連携について説明

資料 3-3、3-4 Loop の取り組みについて説明

資料 3-5 粗大ごみのリユースについて説明

- 市民の声としては、指定ごみ袋が高いということを聞くが、市として、何か施策がないのか。購入場所によって、値段の幅が大きいのを、見逃してよいのか。わがまちクリーン大作戦で、指定ごみ袋を渡すために、購入に苦労しているので、何か考えてほしい。また、Loop の取り組みについては、容器を販売すると、返却する際に手数料を返却するとあるが、使い勝手はよいのか。スマートフォンは、高齢者には使いにくい。(委員)

→指定ごみ袋を導入する際には、環境省よりバイオマスプラスチックが入ったごみ袋を使用するという方針が出ている。バイオマスプラスチックの使用を必須にすると、袋代に影響する。市では、CO₂の発生が少ない素材であれば、バイオマスプラスチック以外でも使用可としているため、メーカーの裁量により、仕入れの値段に幅ができています。統一価格にできないのか、という意見も多数あったが、市が販売すると値段が上がるので、袋の規格等は指定するが、価格設定は他の商品と同様、市場原理に委ねるという手法を選択した。

Loop のしくみは、アプリを使用すること等一定ルールがあり、容器代も高いので、買う人がどれだけいるのかということもあるが、物の買い方の新しい選択肢の提示とご理解いただきたい。メーカーや小売店が今後、プラスチックごみの削減を実現していくために、容器包装をいかに減らして、消費者に提供できるかが課題である。(事務局)

●指定ごみ袋の値段は、やむを得ないと思っている。意識を高く持つことで、値段について理解できるということもある。全市的に指定ごみ袋を導入した年にこそ、各地域のみんなで考えるように啓発してもらえたらよいのではないか。クリーン作戦でごみの分別や減量についてのチラシを配布して啓発してほしい。地域をあげて取り組んでいけたらよいと思う。(委員)

●2019年からフードドライブの取り組みをしている。9月に集中取り組みを行い、2週間で700キロの食材が集まっている。市として、もう少し啓発に協力してほしい。芦屋市では、小中学生にもチラシを配布し協力してもらっている。(委員)

●居住地では、資源ごみを業者に買い取ってもらい、共益費としてマンションの収入にすると、住民の関心度が高く、ごみの分別に協力的になった。(委員)

→本市でも再生資源集団回収という取り組みを実施しており、各自治体やマンションの管理組合で行ってもらうことを推奨している。回収業者からの収益とは別に、市から1kg3円で奨励金を出しているの、活用してほしい。(事務局)

●ハローごみを読まれてない方がかなりいる。市政ニュースもあまり読まれていない。啓発について検討をして欲しい。(委員)

4 連絡事項

●クビアカツヤカミキリについて説明。見つけたら、花と緑の課に連絡をお願いする。(事務局)

●堺市は、ひどい状態になった。今の初期段階の時点で、対応をお願いしたい。(委員)